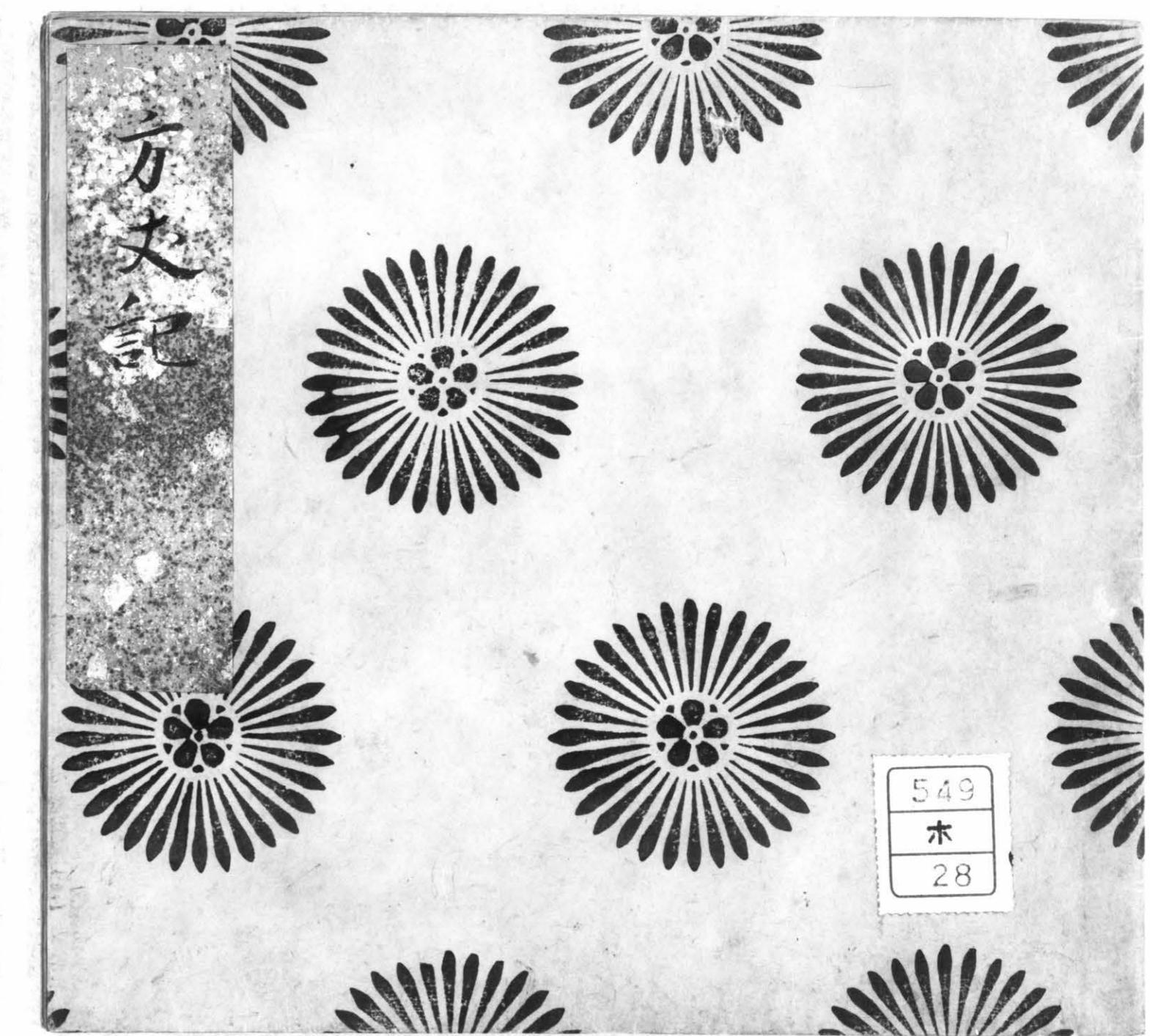




150 cm
SEKISUI JUSHI

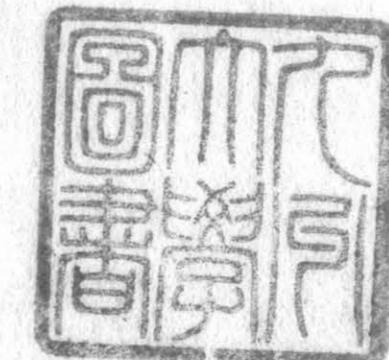
20



0 | 150 cm | 0 | 1 | 2 | 0 |

SEKISUI JUSHI

549
木
28



極河のなまくらを
一てちづきのゆわ
あゆみにうへてを
さう宿したじもく
あそびとふと
本中にあると
まくらをみ
むのむらうす
じねもくら
雪もくら

爲めにうきはれあらうの
そとてまちがひるましゆ
あはれむすびとつる
てとゆめうじとくもつ
タヌムのうな
よし、うけりあす
あまきまきあまきあまきあまき
るやせの不思議をと
や、まくいとくわくをとく
三年五月五日

のよみのせまつねのう
みよぢあつて、ゆゑのう
はけは牛窓の大披扇李家
民翁有りてゆゑのう一の
がくすく一のゆゑのう
樋口萬葉とや、病
や、さくさくの、おもふる
とくゆううすくとくゆううすく

うるまく家へ
にしありあつて
のよせは
は一時とゆよき
たまえよ
おゆゆく見ゆゆき
て二町

やまにひかれてせりてお
されぬまへるやうで
おもむらまくしめあひ
あらわすのとくのとく
眞跡をとらねばせな
まゆ、それから一吹煙とく
よそよそ吹いてまくはせ
ひきの家十之煙ふゆて
まゆはあらわすのとく
中をもよ及ぶとあまゆ

の若狭守はまの山
をもとへる
それるやうは
よき事と家をめぐら
おもてを尊
おもてを尊
あらわすよしと信
軍印はさかの北洋門
意の行ひたまに近見
うらやましに

の山をもとへる
すくゆはまの山
おもてを尊
おもてを尊
あらわすよしと信
軍印はさかの北洋門
意の行ひたまに近見
うらやましに

うまくいはれどもあんた
うりてからうりあつねほ
うまねちうらえのよほ
おののきうみうへう
おとづるのうへう
あきうて日までちわせ
ゆき、
よのくらうてうへう
お草風やうてうへう
やお家
家の様えも

のうけいきもあつう
うきもあくらう
けよの島とくにせのう
うけいきもすう
れぢうけいきもすう
うけいきもすう
あくしてうきもすう
れぢうけいきもすう
うきもすう

お年のみ月にほ

はるかうわがまへ
わらひのすくわら
かせきあらわら
流ゆきの源時や古と
さすうらはれり
あら葉と種あられ
やあらわ
わらわらわ
あら葉わらわ
わらわらわ

渋門わら
大根はら
在らうらわ
鶴をあらも官佐よ
ももあらわ
じらみわらわ
わらわらわ
わらわらわ

りもどりと云ふ事
あり、家をとりし
てからよし代を日のす
よ島とよかの
あらすすり
せし、わざくひ、牛くらゐと
用ともうひ、
あるがゆ飯をよし东、西
北店園をよしすすむに
のつまうす

あつて、わしはうつすまへ
伊勢ふるわしもすとす
よれたおひ色むらに
まくはるを院ぬしひ
ておれもくがくあ
くればすみやし
居る者あらばわ
些へとゆきま

わざわざあくまでもうかく道
のまへとてえをよみよ
むせうあわぬ衣冠布ひやる
ま、ひやうりとめつね
えりはらはうわやわ
て、ひがもとくばちと
もあんじゆうにわらひ
よ、やまとくわらひ
け、をすまうりて人のく
ら、やまとくわらひ

もやうにいはる
のえがみのあくとおと
ちゆるいよけか
せねあれ、いはく
わくとくよの様に
つうくゆきのよづくよ
いふくまくのよづくよ
はおむすびて風をいさむ
すゆ風よ草をよすて野
をよすての(もよすての)

秋や大、せうのうやく
とく、ま行すと五穀とく
そのれやくとま耕
多よふかとくのわく
おりあゆるわくばく
おれより國のえあく
やまと、増も減も
おれより國のえあく
やまと、増も減も
おれより國のえあく
やまと、増も減も

おれの身のまことに
すすり生の身のまことに
かうしての身のまことに
まちうたうての身のまことに
あやめの身のまことに
よみれ亂る身のまことに
を経てまことにあり
あら魚の身のまことに
はなううきにけし身のまことに
うち家とくじわく
ひくひくよくあ
うきよしモヤキノレ鶴
はひゆうて改め
つるあ
わくまくとくとくまく
を男うみぢてうみぢりう
きらあらうめあらう
うれいわ況や河原

るまのりうら道

あやまの山

きりてきく

とくわいとく

おのれをもとめし
ゆきはゆくよ
うかくゆるもとあれ
かくはゆくよ
よあひゆくよ
よのうじゆくよ
よなきゆくよ
よのうじゆくよ

おのれをもとめし
ゆきはゆくよ
うかくゆるもとあれ
かくはゆくよ
よあひゆくよ
よのうじゆくよ
よなきゆくよ
よのうじゆくよ

とて、五あひ、うねりあら
ちる、たまひのう、一あら
あれあらむ、まほらわ
も、おおき道の事、とくらむ
れまつて、や万二千、をか
じるけ、況や、すす、信
しゆく、おれり、うち
白河の、まくらの、まくら
が、まくら、て、いも、陳門
ある、め、いも、や

祐國を遣おやとて、臺灣
に、詣候の時、や、その代、よ
うは、おぞめ、とくらむ、け、す
とくの、を、まわる、とくら
まの、あづの、とくら
ま、おぞめ、とくら
ま、おぞめ、とくら
ま、おぞめ、とくら
ま、おぞめ、とくら

うるわしの御内閣
清ひとねはまくらに
通りぬるまことと
おもゆれやがむかひは
をもあすまほ扇と
いふとあらはりし
まきまきのやうに空う
たのよし家やすまきい
てまよすとす
のり
せん
そよ
すすめ
すすめ
すすめ

家とうちてはやけふ
あめのくにあらわ
けいの伊豆のほ
てあまゆくひうり
はるかに二の月
はすかに一す
あまくに三の月
あまくに四の月
あまくに五の月
あまくに六の月
あまくに七の月
あまくに八の月
あまくに九の月
あまくに十の月
あまくに十一の月
あまくに十二の月
あまくに十三の月
あまくに十四の月
あまくに十五の月
あまくに十六の月
あまくに十七の月
あまくに十八の月
あまくに十九の月
あまくに二十の月
あまくに二十一の月
あまくに二十二の月
あまくに二十三の月
あまくに二十四の月
あまくに二十五の月
あまくに二十六の月
あまくに二十七の月
あまくに二十八の月
あまくに二十九の月
あまくに三十の月
あまくに三十一の月
あまくに三十二の月
あまくに三十三の月
あまくに三十四の月
あまくに三十五の月
あまくに三十六の月
あまくに三十七の月
あまくに三十八の月
あまくに三十九の月
あまくに四十の月
あまくに四十一の月
あまくに四十二の月
あまくに四十三の月
あまくに四十四の月
あまくに四十五の月
あまくに四十六の月
あまくに四十七の月
あまくに四十八の月
あまくに四十九の月
あまくに五十の月
あまくに五十一の月
あまくに五十二の月
あまくに五十三の月
あまくに五十四の月
あまくに五十五の月
あまくに五十六の月
あまくに五十七の月
あまくに五十八の月
あまくに五十九の月
あまくに六十の月
あまくに六十一の月
あまくに六十二の月
あまくに六十三の月
あまくに六十四の月
あまくに六十五の月
あまくに六十六の月
あまくに六十七の月
あまくに六十八の月
あまくに六十九の月
あまくに七十の月
あまくに七十一の月
あまくに七十二の月
あまくに七十三の月
あまくに七十四の月
あまくに七十五の月
あまくに七十六の月
あまくに七十七の月
あまくに七十八の月
あまくに七十九の月
あまくに八十の月
あまくに八十一の月
あまくに八十二の月
あまくに八十三の月
あまくに八十四の月
あまくに八十五の月
あまくに八十六の月
あまくに八十七の月
あまくに八十八の月
あまくに八十九の月
あまくに九十の月
あまくに九十一の月
あまくに九十二の月
あまくに九十三の月
あまくに九十四の月
あまくに九十五の月
あまくに九十六の月
あまくに九十七の月
あまくに九十八の月
あまくに九十九の月
あまくに一百の月

とくにあらゆるやうを
や大、まきやうす、水や風、
よ害とくせと大地よみで、
とくにあらゆる、
齊衡も地よ大、地害よ
ゑうれのやうと
おれよまくは
よあらえあらえ
とおれよまくは
あきらめかわ

よつて
柱のあたる所を
ゆくと、めぐら
て坐すわゆき欲
あり叶ふるもあざりて
進退やうあるま
立候はけりとよしわのと
是と仕事の事の事と
とつけよとくわら
うてあるものとよしわ
よしわをうちり、ゆせら
てあつらう、生入事は僅僕
ちうやうむすびも
す家のとよしわのと
よしわをうそとよしわのと
よしわをうそとよしわのと
よしわをうそとよしわのと
よしわをうそとよしわのと
よしわをうそとよしわのと

さういはまのえり
いそりひきがるに食鶴
かくのむすびのすがはな
くは寧めくも鶴の金を
まみはかわのやうやう
今まくらむくはな
はうくまくはな
はうくまくはな

いそりひきがるに食鶴
かくのむすびのすがはな
くは寧めくも鶴の金を
まみはかわのやうやう
今まくらむくはな
はうくまくはな
はうくまくはな
のれとくまくはな
わくまくはな
かくのむすびのすがはな
くは寧めくも鶴の金を
まみはかわのやうやう
今まくらむくはな
はうくまくはな
はうくまくはな

まほのうじゆく
まめのねぐら
まつゆめやまち
さまで年をあは
れきにまくら
運もんじ
もう五十もくと延びて
もわきしてじりじり
まよひもむかひもと
まよひもむかひもと
まよひもむかひもと

あはやくもゆきし
みこを改めらるいせ
せかあふそ一とわら
に二あせくらゆの力と
ぬくはす用達
ぐり野やすのれくお
くま)て寄つてあつた
しまわよ御伽なしとくま
うやくよしにゆきそ
うふの畫像をあら
てさりとて眉弓の先
とせは懐かひよ普賢ば
ひつ不動の像もよもや
山窓深すゆづよちいさに
まくとまくうらうまは尋
苦行録を叢集してよむ地
をついたいとくとく

わくはまにあがむかへ
きやあとて西の原
ゆゑにまよひすすみ
あゆみにまよひすすみ
ちよはあきらめにまよひすすみ
ほきにまよひすすみ
まよひすすみ
又西つまむまよひすすみ
さうとまよひすすみ
おはまよひすすみ
禁戒をまよひすすみ
けでやめをまよひすすみ
ゆくまよひすすみ
まよひすすみ

満山の風情をめぐらす
うのせけうとが
は陽比にしがや
通ふ種のやうとある
よある風のやまと
ちあひくれ風のやまと
くもはまく流泉のゆを
あらはるけんじはまくし
りきくとくとく
せきよもくわ
かくよもくわ
にわかくよもくわ
かくよもくわ
かくよもくわ

は
つれそひあくやうの
とけさせゆひもとく
はゆすみゆてはぬとく
うぐわくとくとくとく
めうとくみあゆむけく
里をれ、あゆむとくとく

ま
せうとくとくとくとく
わくとくとくとくとく
とくとくとくとくとく
うよ越後をとくとくとく
アキアリて、とくとくとく
せうとくとくとくとく
里をれとくとくとくとく
暮とくとくとくとくとく

れぞうきつわゆる景
そぞくりて伊豆の
あ家ても
うむ窓は白古
ゆくの日暮れ
きをきよあひ
うめのあひ
うめのあひ
いたのひよか
ゆうのゆうの
ゆうのゆうの
ゆうのゆうの

とてうよのじふれ
あらはるのやくをみる
まつてゆづれ
もととくにいひ
やくとくとくとく
ちのとくとくとく
まくわのめはせ

書子奉局の記
あくまで記帳の事
ほくまくもんの事及附實
じまのの事とて
ゆくものとて
くふゆくあれいとて
みせはるはせの事
あくまで記帳の事

もやくはるかにあつた
えりをほむるわざをす
其のよきわざはあらゆる
が行なひとあるとけ
うかがひぬまきる
嘗てのうりをとる
ものあゆみをすまう
はいとあはれがさう
人をうながす
かまくらうと
こめかむし苦と
子勤めうへりと

とくに南寧のまちをさる
降りて、いわ用事をま
さるが、そのつてしゆる
うのうがとくとくもつ
うの焼けとよきともひ
つきて、とくのうてう
とく、とくのうて
ふれや、はなう
とく道とじゆくと
さる淨のみさるのみを
さるよすくとくとくと
うきをうきにうきを
うきよすくとくとくと
あらわやかとくとくと

はくまのまことのうきよとし
に古様を下すと情
りを何何んとおもふ
てやんのせよ達磨がゆ
どゆふよはゆりに茶道
能かの茶とてしと

あまのまことのうきよとし
はくまのまことのうきよとし
あまのまことのうきよとし
はくまのまことのうきよとし
あまのまことのうきよとし
はくまのまことのうきよとし
あまのまことのうきよとし
はくまのまことのうきよとし
あまのまことのうきよとし

